

# 施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

## 1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 家庭学習の支援	② 施策番号	7402
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	青少年センター		

## 2. 施策の現状把握

### [1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	18歳以下のこどもに学習活動の場を提供し、家庭学習の支援をおこなう。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	家庭学習の重要性が認識されており、家庭環境等により家庭学習が困難な児童や自主的な学習の場を求める児童、そしてその保護者への支援が求められている。

### [2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 自習室利用者数 計算式	人	家庭学習の支援の場をどれだけ提供できたかがわかる。
② 計算式		
③ 計算式		

指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考	
① 自習室利用者数	人	目標値	500	500	500	500	500	平成29年度から小学生学習会は開催していない。
		実績値	341	341	327	—	—	
		達成率	68.2%	68.2%	65.4%			
②		目標値						
		実績値						
		達成率						
③		目標値						
		実績値						
		達成率						

### [3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1 青少年学習活動推進事業	自習室利用者数	人	341	327	400	9,541	9,970	10,267	A	イ b	○
2 施設維持管理事業	修繕費	千円	12	359	318	8,212	12,014	8,606	C	イ a,d	
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	2					17,753	21,984	18,873			

### 3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	家庭環境等により自宅で学習が困難な青少年のために家庭学習の場を提供することにより、家庭学習の機会が保証され、家庭学習の支援を行うことができる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2〔2〕の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	自習室利用者数については、小学生学習相談会の実施がなくなったため、微減している。R1年度からは新しい青少年センターとなることから、周知を行い利用を促進していく。また、中学生の学習会については、青少年センターの場所が信達中学校区に近づいたこともあり、泉南中学校だけでなく信達中学校の生徒も増えており、利用が増加傾向である。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	中学生向けの事業においては、元教員や学生ボランティア(担当は生活福祉課)が指導にあたるなどしており、市は自習室を提供し、放課後利用できるよう開館時間を延ばし対応するなど施設面での協力をしていて、役割分担はできていると考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2〔3〕を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	自主的学習の支援を行っており、家庭学習の支援という目標にあっており、適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2〔3〕において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	自主的学習が可能な場合は、多数あるほうが良いと考えるため、重要であると考えますが、一方で図書館、公民館等複数あるので最重点の課題ではないとも考える。

### 4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	青少年センターの施設を自主的な学習の場として利用してもらうことにより、家庭学習の支援につながるため、今後もPRをしていく必要がある。その反面、来年度以降については施設の規模からして、対象となる18歳以下の子どもたちに広く認知され、利用者が増えてくると、異年齢での利用においては、すべての子どもにとって使いやすい場とはならないことが課題となる。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

### 5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	青少年センターにおける自習室利用のPR。児童館利用児童に対し、宿題を自習室ですることができる旨の声掛けなど。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	利用の状況を見極め、運営委員会委員に助言や意見をいただきながら、事業の拡大等に向けた検討を行う。
中長期的対応 (3~5年をめどに取り組む改善案)	あり方基本方針を踏まえ、今後の事業のあり方を検討する。

### 6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	自習室の利用を通じた家庭学習支援が適切に行われている。 家庭学習の支援の推進にあたり、関係機関との連携や他施設の活用など今後の展開に向けた検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある